

秋葉 隆先生、ありがとうございました

峰島 三千男

順天堂大学

2022年6月の日本透析医学会総会にて、秋葉 隆先生の突然の訃報に接し、大変驚いた次第です。5月に愛媛県松山市で開かれた日本医工学治療学会でお目にかかったときには、いつものお元気な姿を拝見しておりましたので、信じられない気持ちでいっぱいでした。

私は2001年から2018年まで、幸運にも秋葉先生と同じ東京女子医科大学に所属しておりましたので、いろいろとお世話になったのは言うまでもありません。特に印象に残ったことは、2001年に東京医科歯科大学から東京女子医科大学へ移られてからまもなく、秋葉先生が大会長として国際血液浄化学会 (ISBP2001) を主宰され、いろいろとお手伝いをさせていただいたことです。米国で9.11の事件が起こる直前の国際学会であり、あやうく難を逃れた大会でもありました。

その後、2004年に大学内で臨床工学科へ移った私を、いろいろと助けて下さったのも秋葉先生でした。臨床工学科は私を含めて医局員3人の小さな科であり、当時は医療に直接貢献のない研究が主体の科でしたので、時に風当たりが強いこともございました。そんな中、秋葉先生がご所属の血液浄化療法科が学術面でも、また、研究面においてもいろいろとご配慮下さいました。私は、当時70名を超える

臨床工学技士が所属する臨床工学部運営部長も兼任しており、そのうち30名ほどの技士が透析室でご厄介になっておりました。年間数百万円にも及ぶ技士の出張旅費を工面していただき、臨床工学技士による学術活動を全面的にご支援いただいたこととなります。先生のご配慮に改めて感謝申し上げる次第です。

秋葉先生は、学術的には厳しい面もお持ちでした。若手の発表に対しても、フロアから度々質問され、その妥協を許さない姿勢に私はいつも敬服しておりました。私も早稲田大学理工学部の学生時代 (1980年代前半) に、秋葉先生から医学的見地からのご質問やご意見をいくつかいただき、医工学研究にとって欠かせない重要なことを教えていただきました。そのことは今でも鮮明に覚えており、その後の私の研究活動において大きな財産となっています。

永年にわたって腎不全治療、とりわけ血液浄化療法では第一線でご活躍された先生であり、大きな星を失った感は否めません。秋葉先生を失った後を残された我々が埋めることは困難を極めるとは思いますが、天国から我々を温かく見守って下さるのではないかと考えております。

安らかにお眠り下さい。ありがとうございました。